



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を
～～～ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ～～～

☆5月の目標

☆みんなと
なかよくしよう

☆笑顔で
あいさつしよう

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り

・・・今後の行事計画・・・

- ・5月20日 避難訓練
- ・6月 3日 第1回漢字検定
- ・6月24日 1学期終業日
- ・8月 5日 2学期始業日



☆時計の時間と心の時間「筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう」

六年一組 齋藤 志織

時計の時間と心の時間」の筆者は、生活の中では「心の時間」が生きていく上で大切だと主張しています。私は筆者に共感します。

理由は、筆者の事例の一つに「その人がその時に行っている事をどう感じているかによって、進み方が変わる。」と書いてあるところに、「死しかに。」と思ったからです。私は学校の宿題をしている時にたった三十分のはずなのに一時間以上やっている気がしてきた時があります。友達と遊んでいる時は三十分はとて短いと感じたことがあります。これは、私の「心の時間」の楽しい時には、時間が速く進む、たいくつな時はなかなか時間が進まない、ということだと思います。筆者の考えを疑問に思うところは、事例二つ目の「物が多い部屋の方が身の回りから受ける刺激が多いので、時間の進み方がおそく感じる」というところだと思います。私は物が多くなって少なくなっていく、進む時間は同じだと思ってしまう。この文書を読んで、「心の時間」を大切にしようと思いました。



☆「カレライス」を読んで
六年二組 松井那葉

この物語を読んで思ったことは、ひろしの気持ちも共感できるけど、お父さんの気持ちも共感できません。なぜなら、ひろしは一日三十分のゲームの約束を破って、お父さんにセーブもしないでいきなりゲーム機のコードを抜かれてしまえば、私もお父さんにあやまりたくないと思います。お父さんはひろしに一日三十分のゲームを約束をしたのに、その約束を守らなかったひろしも悪いと思います。

☆「カレライス」を読んで
六年二組 川田 琢磨

ぼくは、この「カレライス」を読んで、ひろしとお父さんの関係がぼくとお父さんとの関係とすごく似ているなと思いました。もうひろしは、六年生で反抗期のじきだからお父さんと口げんかをするのは当たり前だけど、ぼくはひろしも悪いと思いました。理由は、一日三十分の約束のゲームの時間を破ったからです。ぼくもそんなことがあって、お父さんにゲームをぼつしゅうされたこととあって反省しました。反抗することは当たり前いいことだとお父さんとお母さんは言っています。反抗しない子供はあまりいないと思います。でも、お父さんお母さんに注意されたことは、自分がなっとくすれば聞こうと思いません。

六年一組 柘植 航太

「時計の時間と心の時間」の筆者は、生活の中に必要なのは「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合うことが大切だと主張しています。ぼくは共感します。なぜなら、もしお母さんと買い物に行くときお母さんは「少しだけ」などと言うかもしれないけれど、お母さんは買いたい物が好きです。そして子どもは買いたい物がきらいな人もいます。お母さんには十分くらいに感じていたと言いかもしれません。その時、ぼくたちは一時間くらいに感じていたと思います。でも実際には三十分しかたっていないかもしれません。こういう時などに、「心の時間」があり、「時計の時間」が必要になってくるのです。この事例によって、ぼくは筆者に共感します。

六年一組 吉村 泉希

「時計の時間と心の時間」の筆者は、「心の時間」は自分感覚で他の人とちがう感じに思うことで、「時計の時間」はどこにいても同じで進み方は変わらないと主張しています。私は納得しました。私が絵をかいている時は、時間が速いと思いました。でも、国語の宿題をしている時、いつもよりも時間がおそく感じました。同じ時間でも、楽しい時や集中している時は速くなったりして、つまらない時はおそく感じるという事だと思えます。

六年一組 吉田 ロイス

「時計の時間と心の時間」の筆者は、「心の時間」と「時計の時間」はちがっていて、いつもこの二つの時間を頭に入れ、私たちのいつもの生活に使われていることを主張していると思います。

例えば筆者は、「その人がその時に行っていることをどう感じているかによって、進み方が変わる。」と伝えていますが、だから、楽しいことをしている時は時間がたつのが速く、たいくつな時はおそく感じるようになります。ぼくも、学校はいつもおそく時間が過ぎていく感じがします。でもゲームをやりテレビを見ている時は、時間がすごく速くいっている感じがします。このように心の時間は、おそくいたり、速くいたりするようになります。でも時計の時間はいつも同じスピードでいっています。ときどきお母さんは「ええ、もうこんな時間か。」と言っています。ぼくもそう感じます、このように、「心の時間」と「時計の時間」はちがっていて、いつも使っています。



六年一組 グリグーティス 晶子

「時計の時間と心の時間」の筆者は、心の時間にも時計の時間にも目を向けることが大切だと書いています。

心の時間は外部からのえいきょうによって進み方が変わるといふ事を知って、いけば、生活にも入れられます。また、それを道具として使い、心の時間と付き合ううえでと主張しています。

私は、「その人がその時に行っていることをどう感じるかによって進み方が変わる」という事例に、納得しました。なぜなら、私が1週間の月、水、金の3回、バスで学校から帰るのですが、毎回同じ時間待ちます。友達と話して待っている日は、数独などをして待っている日は、何もせずにた立って待っている日よりも待つ時間が短く感じます。

他の時もそうです。だから、私は筆者の共感します。



☆ほくのお母さん 三年二組 赤川けいすけ

ぼくのお母さんはやさしいかこわいかよくわかりません。おきる時にねぼうするとおこしにきます。ちよつとまっつて」と言っても何度もおこしにくるへんなお母さんです。お母さんの作るごはんの大こう物は、からあげです。わけは、ジュシーだからです。お母さんの大こう物は知らないけど、なんとなくぜんぶすきです。お母さんは、アメリカの学校に車でバスでいましておこつてくれます。本当にありがたいと思います。お母さんそだててくれてありがとう。



☆わたしのお母さん 三年二組 菊地るか

わたしのお母さんのすきな動物は犬です。わたしのお母さんは、いつもりょうりを作ってくれます。そのりょうりは、とてもおいしいです。一番すきなものは、チーズケーキです。お母さんわたしをそだててくれてありがとう。私はお母さんが大好きです。



